

ならじよ
奈良女子大学通信
today

vol.
39
October
2022

特集

女性のキャリア

— “わたしたち” のための選択をしよう —

- 06 Introduction to Master's Studies
- 10 ならじよライフ ～工学部の場合～
- 13 Club/Circle # NWU
- 14 学長・副学長インタビュー
- 16 佐保会各支部リレー便り・なでしこ基金



奈良女子大学大学院博士後期課程の修士で、大学講師や、夫婦で経営するヒンメル・コンサルティングにおいて、コミュニティを主宰したり、「対二のコーピングを実施したりするなど多方面で活動されている齊田英子さん。大学教員という憧れのポストを得るまでの苦労、そしてそれを家族との生活のために手放すことになった背景や、その後の夫婦での起業に至るまで、現在の活躍における原点は何だったのか。それを紐解くにあたり、久しぶりに訪れる母校の記念館で、学生時代の齊田さんをよく知る恩師の中山徹教授、そして現在まさに大学院生として今後のキャリアを模索する大学院博士後期課程2回生の学生との対談を行いました。

大学院への進学や、修了後に研究者としてのキャリアを考えていく上での経験の活かし方のヒントが詰まっています。

齊田英子さんプロフィール
1974年、長崎県生まれ。

2002年奈良女子大学大学院博士後期課程を修了し、その後デンマークに留学。専門は都市居住政策、まちづくり。2005年〜2016年、熊本県立大学環境共生学部准教授となったが、家族との東京での生活を実現させるため退職。東京大学大学院、明治学院大学に研究員として所属後、中央大学法学部兼任講師。夫婦で起業し、国際「コーピング連盟」(ICF)認定コーチ、国家資格キャリアコンサルタントとしても活動。

「ヒンメルカレッジ」を主宰し、公式LINE「彩り家族」では家族の未来をひらく「話し合い」について発信中。
(https://tenki-saita.com/)



中山徹 教授

齊田英子さん



大学院人間文化総合科学研究科
博士後期課程生活環境科学専攻
千代延未帆さん

著書に「家族と話し合いをしますか？」(PHP研究所・2021年)、「デンマークの対話が生まれる空間づくり」(人と住まい文庫・2022年)など。4歳から中学生まで3人の男児の子育て中。

中山徹教授プロフィール

奈良女子大学生活環境学部住環境学教授、博士(工学)。専門は計画系、特に都市計画や農村計画。主な授業担当は、「住環境デザイン基礎」「都市政策論」「地域共生計画学」「地域計画制度政策論」など。2021年〜生活環境学部長。

(以下、敬称略)

九州から、奈良女子大学大学院へ

齊田：学部入学の時は、自分のやりたいことをはっきりさせることのないまま、鹿児島大学農学部に進学しました。森林環境や木質(※1)の住環境について勉強したのは、当時から「家」や「暮らし」に興味があったからです。母から「自分のやりたいことを選んで大学院で勉強する」という選択肢もあるよと勧められていて、学部入学当初から大学院進学は頭に行っていました。母も奈良女を受験したことがあり、結果的には福岡女子大学で学んだのですが女性が自立する大切さなどを聞いていたのが「女子大、住居学」のキーワードから奈良女の大学院への進学を目指しました。最初の大学院試験には落ちてしまったため、まずは研究生として入学しました。

※1木質(木質系材料)：原料の木材を板状や小片、繊維状などに再度分解して、接着剤などを加えて再構成したものを。木を薄く削いだ2次元板を接着剤で積層して作る合板や、木を繊維化してから成形するファイバーボード(繊維板)など。

研究テーマは「住民参加」

齊田：研究生として入ったちょうどそのタイミングで、奈良女に着任されたのが中山先生です。私の興味を引き出してきて、研究生のうちはまだ時間に余裕があるので、あちこちの会合や勉強会に連れて行ってくれました。授業も凄く分かりやすく面白かったですね。千代延：中山先生の専門はどのような分野でしよつか？

中山：都市計画を担当しています。住環境学科で扱うテーマの大半は建物ですが、私は建物というよりまちや地域を対象にしています。まちをどう作るか、地域をどう変えたいかという研究をしています。

齊田：住居学から暮らしや都市に興味があったら、住んでみる人にも興味があったら、ピンときたのが「住民参加」(※2)でした。年齢や性別を超えて話をし、何かを作っていくのは夢があつていいなという思いがあつたところと合致して、これがやりたいと思いました。

千代延：在学中の齊田さんはどのような印象でしたか？

中山：学生の性格は様々ですが、彼女は地元の人たちと気軽に話ができる学生で、そこで関係を作っていました。当時はたくさん地域調査に出向いて、齊田さんを連れて行くようになると地域の人が「君より齊田さん呼んだ方がええなあって言われるようになって」。

都市計画に携わろうと思つと、地元の人と話をして好かれたいとダメです。齊田さんはその点ができていたという印象です。

齊田：そう言ってもらえるとすごく嬉しいです。当時はすごく緊張してドキドキする面もあつた。行政活動を住民の意見が反映されたものにするために、立案から実施、その評価まで、住民自身が参加していく。

齊田：難しいテーマに向き合えたのは、研究生の時に軽い気持ちで行ったドイツの視察旅行の経験があったからです。見るもの全てが違うし、ドイツでの住民参加やまちづくりは非常に活発で、スケールが違いました。初めての海外で、すごいインパクトでしたね。先生も海外に行かれることが多くなって、自分も海外の様子を見たくなりオランダにも行きました。海外ではワクワクすることが多く、論文も楽しんで書きました。

博士号取得後、デンマークへ

齊田：博士の学位を取り、旅行者としてではなく生活者としてヨーロッパを見てみたかったんです。デンマークの民主主義が世界でも最も成熟していて、住民参加では番だと聞きつけて、当時誰も行っていなかったことからチャンスと思いきや、幸運にもデンマーク政府奨学金の試験にパスすることができ、留学が叶いました。

千代延：そこでも地元の方達にお話を聞きに行つたのですか？

齊田：そうです。行政にインタビューに行つても、皆、ラフな服装で、キーパーソンが誰かも分からないまま、和気藹々と話し合いが進みます。生活者ありきで、いい街を作ろうとする仕組みがいろいろあることに日本との違いを感じましたね。デンマークでは、至る所で「デモクラシー(お互いを尊重し合う姿勢)」が提唱されていて、その考えが脈々と受け継がれていることが今もずっと印象に残っています。

千代延：先生から留学先のアドバイスはありましたか？

中山：当時、都市計画で視察に行くのはオランダやドイツ、イギリスが多く、北欧の中では

ありましたが。中山：でも、緊張を乗り越えられるかどうか大事。齊田：リアルな地域の話が聞けることへの面白さが段々勝っていました。

博士後期課程進学

齊田：子どもの頃、母の友人が長崎大学で教育学の先生をされていて、女性が研究者として好きなことに没頭している姿が素敵だなと感じ、教師や研究者になれたらいいなと思つていました。高校生の時には「大学教授になる方法」という本も買ったくらい、研究者になるにはどうしたらいいんだろうかと考えていましたね。実際には、大学院に進学して、いったい何歳まで勉強するのか、お金はないし、年齢のことも気になるし、就職先が必ずあるわけではないという不安はありましたが、どっちにするかと決めるとき、やっぱり好きな研究を続けてみたいという気持ちが大きかったです。周りにも博士後期課程に進む仲間がいたので、行つてみようと思えましたね。

千代延：仲間がいらついたらというのとはとても羨ましいです。私のコースでは、同級生は皆卒業してしまつたので。去年の夏頃には全員進路が定まつたのである程度想像はしていたのですが、いざ入るとすごく寂しくて。齊田：仲間がいると違いますよね。社会人を経て戻ってくる方もいて、学問に向き合つていこうという先輩方は素敵でした。

千代延：中山先生から、進学に関して何かお話はされましたか？

中山：齊田さんが選んだ「住民参加」というテーマは重要でありながら、論文執筆が難しい分野だと思つていました。ただ、関心があるなら博士後期課程に行つて続けたらどうかと話を

入ウエーデンが主でした。デンマークはあまり行つていない人がいないし、せつかくのチャンスだから、と言つて話しましたね。

キャリアの選択

齊田：今思うと、デンマークではものすごく真面目に研究生生活を送つたと思います。研究実績を残すために学会の審査論文をひたすら書き、日本で研究者として職を得るための公募を探しては応募する日々でした。けれどもそんなすぐには見つからず、帰国後1年は市役所の非常勤職員をしながら公募活動を続けました。運よく地元九州の熊本大学の大学で公募が出たので応募し、熊本県立大学の講師として着任しました。

千代延：熊本県立大の後、所属をいくつかわえられていると思うのですが、どのような経緯で移られたのかお聞きしたいです。私も今、博士後期課程に進学したところで、今後のキャリアを考えているので参考にさせてください。

齊田：研究者を目指しているのですか？

千代延：大学で研究者になるのか、企業の研究職に就くのかはまだまだ全く別のことをするのかまだ何も決められていなくて、身内が研究職に携わっていることもあって、アカデミア(大学や公的研究機関における研究職のポジション)も考えてはいますが、とにかく模索中です。

齊田：今は博士課程を出ると大学以外にもいっぱい就職先があるものですか？大学もポジションないですよね？

中山：住環境学だと、研究するなら圧倒的に大学だね。齊田：でも話を聞いていると、博士後期課程に進学したということはアカデミアへの思いが大きいようですね。

女性のキャリア —“わたしたち”のための選択をしよう—



千代延：たまたまは先輩方を見ていても、枠が空いていないなどの話を聞いて、運とタイミングなのかなと思ったりもします。実は大学入学時には別学科を志望していたこともあり、他のことをしてみたいという気持ちも捨てきれないのかもしれないですね。なんとか受かったコースに入って必死に取り組むうちに、気づけばここまで流れ着きました。

齊田：色んな縁です。導かれるように。

千代延：博士まで進学していきながら、大学の先生として自分自身が教えられるのかという不安もあります。

齊田：選択肢がたくさんあるのは良いことですよ。研究分野によっては先が見えにくい場合もあるし。

千代延：賢沢な悩みかもしれません。が、広すぎる選択肢を前に呆然と立ち尽くしているような感じはしません。

齊田：でも、私もそんな感じで迷いに迷ってのスタートでした。私がポジションについては31歳の時、学生は10歳前後しか離れておらず友達のような感じで、和気藹々としていました。どんなとん街に出て会合に皆で行ったり、周りの先生に連れて行ってもらえたのも助かりましたね。その後、結婚して二人の子どもを出産し、熊本と東京主夫の二拠点生活を6年経験しました。当時は、その生活に疑問もなく、熊本と東京を往復しながら、お互い好きなことをしていましたし、掴んだ大学教員というポジションを手放すことは微塵も考えていませんでした。しかし、例えば、風邪で高熱があっても解熱剤を飲んで講義や補講をこなしたり、一度体調が崩れても、完治する暇はなく、仕事は休めない日々。ある時、急性胃腸炎で倒れ、緊急入院を経験してからは、夫婦のキャリアについてお互いに深く話すようになりました。長男

が小学校に入学するまでをタイムリミットと目標を定めて公募への応募を頑張りました。当時、中山先生にも相談しましたね。

中山：私が九州に調査に行った時に会ったね。大学教員の感覚からすると、大学の専任教員ポストを、次が決まっていけない状態で辞める選択肢は基本的にありません。なかなか大きな冒険だという話をしました。

齊田：その言葉にもものすごく納得したのですが何のために働いているのか？と考えるようになりまして。子どもを抱えて仕事をし、成果も出さなげない、子育てをしていない人と同じ評価指標で測られるので評価のための論文、論文のための論文を書くようになり、そんな自分にガツカリしたんです。また、パートナーである夫と作った家族、これも大事なまちづくりだと思っただけです。家族がハッピーじゃないと、仕事も誇れない、という葛藤がありました。熊本でのワンオペで働くパターン化された生活が今後数年続くことが見えたとき、熊本県立大学を辞める決心に至りました。もちろん、東京でのポジションを探すために必死で論文を書きながらギリギリまで新たな公募に応募していましたが、決まらないうまま職場にも突然の辞職を願いました。怒られるかとも思いましたが、授業などの引継ぎは何とかするから次のステージで頑張ると送り出してもらえたことは今でも感謝しています。

熊本から東京へ

齊田：東京へ移動し、家族全員がようやく一緒に住むことになりました。縁があつて東京大学、明治学院大学のそれぞれで研究員をしました。その後、末の子がいよいよ1歳になるうかという頃に、自分のキャリアを再スタートさせようと思っただけで、また縁があり中

はづきりしている方がコーチ業として信頼してもらいやすいこと、また気象予報士である夫が、ゆくゆくは独立したいと元々話していたこともあり、一緒に起業することを決めました。気象の専門家である夫とまちづくりの専門家でコミュニケーションにも携わっている私、全く関りの無いことをやっているように見えるかもしれませんが、根底ではつながっています。災害対策でも、声を掛け合っただけで、どうするかを決めたりします。日頃から「対話」を大切にしよう。そんな発信を公式「ZINE」などで行っています。

行き着いた「安心する居場所」

千代延：コーチ業において大切にされていることはありますか？

齊田：信頼関係を築くために、私も心をオープンに、嘘偽りなく話し、そして、何より聞くことをとても大事にしています。デスマークでも、信頼関係を作るためのコミュニケーションはとても大切にしています。その姿勢はどなたであつても変わりません。

千代延：これまでのお話で、学生時代からの経験が全て繋がっているという印象を受けます。

齊田：特に先生に色んなところに連れて行ってもらった経験は大きいですね。飛び込んだ先でハッとすることがあつたり、色んな人の考えを知ることができたのは大きいです。そして何よりも、中山先生に初めて連れて行ってもらったドイツ！色んな経験が糧になります。

千代延：そうですね。私も、今はとにかく経験！と信じ込んでこの学生記者活動にも手を挙げたんです。なので、そう言っていただけで居場所をテーマにされていますが、改めて

中央大学の先生から授業を担当しないかと声をかけてくださった。2019年から、都市政策論という授業を担当しています。

千代延：それまでの縁があつてこそですよ。授業はどのような内容でしょうか？

齊田：「課題解決に向けた暮らしのデザイン」という軸のもと、都市計画制度に関する話、北欧を中心としたまちづくりや政治の話、「コンバクトシティやスマートシティについて」、また、少子高齢化の問題、未婚晩婚や共働き世帯の増加、引きこもりや孤立の問題、多様な家族形態のことなど、日々の生活で、自分事として考えられるように内容を作っています。授業はすごく楽しいです。

千代延：授業が楽しいと思える根源はどこでしょうか？

齊田：私が授業で伝えたいと思っただけの基本的には「対話」と「参加」です。人は話を聞かないと分かり合えないよ、と毎回伝えていきます。学生は、日々の生活や友人関係において「対話」は避けては通れないと分かっているのだから、それがまちづくりや政治においても必要だと理解します。そのことが彼らに伝わっていることが反応として返ってくるのが、一番嬉しいですね。専門知識を一方的に学ぶ授業ではなく、自分自身の生活と結びつけて考えるところがすごく新鮮な気がします。私がアカデミアにいるだけではない、母親であり、生活者であり、起業したりと違う役割があるからこそ授業内容になつているのかなと思います。

千代延：私も非常勤講師としての経験が少しあるのですが、受講者からの反応があると嬉しいですね。内容の練り直しにもつながりますし。中山先生は、学生と接する上で念頭に置かれていることはありますか？

中山：一番重要視しているのは、学生の個性を

「安心する居場所」とは何でしょうか？

齊田：自分の気持ちを素直に言える場所だと思います。家族にも自分の気持ちを素直に言えないことはあります。また、いろんな場面で、声の大きい人の存在や性別の壁に阻まれることが多くあります。そのようなことは無くしたいですね。誰でも安心して自分の気持ちや考えを出し合える場所が必要だし、家族など近い人とはそれができた方がいい。でないと孤立してしまうし、何万人という自殺者も減らないうつるんです。

千代延：今後のやりたい活動などはありますか？

齊田：「家族と話し合いをしますか？」と題して昨年本を出版しました。家族だから話し合いをして仲良くしようと言っているわけではなく、近しい関係だから、そううまくいかないことがあります。家族の形もどんどん変わってきています。立場関係なく対話が大事だということを書きました。一方で、若い世代が結婚に興味がない、一人がラクだという声もいっしょに届いて、20代の方たちが自信を持つて、その後の30代40代に進んでいけるように、若い人向けのコーチングや発信も意識しています。

千代延：著書を読ませて頂いて実感したのですが、対話のできているようですね。千代延：そうですね。ちょうど20代半ばの私も自身の安定を一番に求めてしまいがちなので、心に残るメッセージでした。

学生に望むことは

齊田：失敗を恐れず、いっぱい経験して欲しいです。失敗は失敗ではなく、糧となつてそこからまた得るものがあります。大丈夫、振り返ればなんてことないです。また、年を重ねるとお金やスキルを使うことはできるけれど、時間を



留学先のデンマークの家並み

伸ばすこと。評価はしないといけないけれど、自分基準で評価をしていいのかと常に考えています。研究チームの設定でも、基本的にこちらから与えるのではなく、自分の興味関心があるテーマを設定してもらおう。それに基づいて、フィールドを用意しています。僕自身がそのような研究室で育ったこともあり、教員が枠を決めてそれに嵌めることはしません。でなければ、自分より立派な研究者にはならないですからね。

齊田：その方針は学生時代にすごく感じましたね。

コーチングとの出会い

千代延：講師をしながら、夫婦で起業もされていますね。

齊田：元々、住民参加や対話を研究しているものの、自分自身に「コミュニケーションの自信がなくて。例えば学生から相談を受けると、教員という立場で、何か良いアドバイスをしなればならないと必死でしたし、ワンオペで二人の子どもの育児をしながらどうやって研究を進

より自由に使えるのはやっぱり学生時代です。人は、人生で重要な出来事の8割は35歳までに起こると言われています。20代を謳歌して、時間を大切にしたいです。

中山：研究においても仕事においても、本来自分がやりたいことと手段がひっくり返つてしまふことがあります。そうなるまで研究、仕事は面白くないと感じます。齊田さんの場合、大学の教員を辞めてでも家族との生活を選んで、その経験が今につながっている。世間体にとだわるのではなく、自分の人生は、家族はどうあるべきかを選んでいくのが良かったと思います。学生の皆さんも、そもそも何がしたいのか、そのためにどういう職業につくのかという視点で考えてほしいなと思います。

千代延：記者としてではなく一人の学生として、今後の指針にしたい言葉です。ありがとうございます。

学生記者の声



自分のやりたいことと、仕事や研究の目的。誰のための人生か？改めて自分を見つめ直す時間を頂けたことに感謝しています。残り半分ほどになった20代をより有意義なものにし、自信を持ってキャリアを選択できるようになりたいと思います。

千代延 未帆(ちよのぶ みほ)
大学院人間文化総合科学研究科
博士後期課程生活環境科学専攻
出身校：三田学園中学校・高等学校(兵庫県)

大学院へ
ようこそ!

数物科学専攻 数学コース



理学部
数物科学科
数学コース
教授

梅垣 由美子

うめがき ゆみこ

Q 大学院の数学コースのカリキュラムや研究について教えてください。

学生は数学に関して興味のある分野をそれぞれの専門の先生のもとで研究しています。また、大学院ではオムニバス形式の授業もあり、専門以外の分野にも視野を広げることが出来ます。

また、奈良女子大学には興味深い研究をされている先生方がたくさんいらっしゃるので、是非ホームページなどをご覧ください。

Q 梅垣先生ご自身の研究について教えてください。

私の専門は解析的整数論で、特に素数分布を起源とする研究です。素数を二つ二つ順番に見つけていくのは数が大きくなると大変ですよ。ある素数が与えられたときに次の素数を見つけることや、大きい整数が与えられたときにそれを素因数分解することも簡単ではありません。素数にはまだわからないことがたくさんあります。今はコンピュータを使って色々なことが調べられますが、理論的に素数を調べるためには例えば $\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s}$ という関数を用います。オイラーはこの関数を用いて素数に関する結果を残しました。オイラーは s を実数としていましたが、リーマンはそれを複素数に拡張しました。現在ではリーマンゼータ関数と呼ばれています。リーマンゼータ関数によって素数の情報、特に素数分布の情報が色々見えてくるようになりました。

整数論では様々な研究対象が様々な手法で研究されています。整数論は代数学に分類されることが多いのですが、代数学以外の数学やコンピュータも無関係ではありません。

これまでの苦しさは吹き飛び、何物にも代えがたい喜びを感じます。

研究する中で見えてきたものや様々な関係を追究していくので、研究対象は二つに限りませんが、手法も変化します。実際、解析的整数論の勉強はリーマンゼータ関数から始まりましたが、今は違うものを対象に研究していますし、道具も複素解析学だけでなく、最近では実解析や確率論なども用いています。研究のために常に勉強をすることも

必要になります。それは大変ですが、新しい視点はとても面白く感じます。

Q そのような研究をされるようになったきっかけはなんですか？

学部4回生の時、面白かった授業の先生のゼミに入ったのですが、その先生のご専門が整数論だったというのがきっかけです。ただ、その授業内容が整数論だったわけではなく、その授業向けに整数論の授業は開講されていませんでした。ですから、整数論を専門とすることになったのは偶然だとも言えます。学部4回生になつてゼミで二次形式を勉強したのが整数論との最初の出会いです。でも、私が解析的整数論と出会うにはもう二つの偶然がありました。それは、大学の図書館で、解析的整数論の先生にお会いしたことです。その時に先生が「解析的整数論の話も聞いてみない？」と軽い感じでゼミに誘って下さったことがきっかけとなり、結局そのゼミの先生方や先輩方から修士論文のご指導をいただきました。そういう経緯で、解析的整数論を専門としています。

小・中学校の頃は数学も好きでしたが、読書や歴史や古典の方が好きでした。ですから、当時の先生が私の進路をお知りになったときは大変驚かれた様子でした。しかし、数学を選ぶ経緯はそのところからの積み重ねがあったと思います。小学校の



最後の、学生へメッセージをお願いします。

学問を学ぶ上では喜びもありますが苦しいことも多くあります。それでも面白さを感じて努力できるのであれば、その学問に適

ません。私は解析を用いて研究をしています。その対象はリーマンゼータ関数に限りません。素数分布の情報をリーマンゼータ関数を持っているように、整数論における研究対象の情報を持っている関数があり、それを用いて解析的な視点からアプローチしています。

Q 数学研究の魅力や楽しさは何だとおもわれますか？

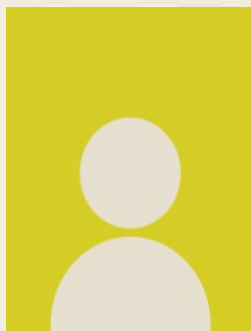
正直に言うと、研究では面白さを感じることも苦しさを感じることも多いと思います。しかし、例えばゼータ関数を用いて現在得られる情報のギリギリのところを突き詰めていくと、もともと本質に触れたという気持ちになります。その気持ちを諦められず研究を続けています。また、結果が出たときはそ



性があるのではないかと思います。

また、二つの問題を考え続けることがよくあります。一、二週間、場合によってはそれ以上の長い時間、二つのことを考え続けてもおかしくありません。難しいと感じたとしても、わからないことを誤魔化さずに学問に対して誠実に向かい合うことが大切だと思います。

学生記者の声



これまで大学数学に触れたことがなかったので、先生の研究内容を理解できるのかお話を聞くまではすごく不安でした。しかし、先生がとても丁寧に噛み砕いて説明して下さったので、分からないながらも美しい世界があるのだと感じることができました。また、問題との向き合い方はどの学問でも同じなのだと思いました。私もこれから専門的な研究をすることになるとは思いますが、疑問をそのままにせず、真摯に研究に取り組むことを忘れないようにしたいと思います。

T・M
文学部言語文化学科3回生

大学院へ
ようこそ!

生活工学共同専攻



工学部
工学科
准教授

大背戸 豊

おおせと ゆたか

生活工学共同専攻とは

平成28年にお茶の水女子大学と共同設置した博士前期課程および博士後期課程。学生はお茶の水女子大学の教員からも研究指導を受けることができ、学位はお茶の水女子大学と奈良女子大学の連名により工学もしくは生活工学が授与される。安全安心で豊かな未来の社会生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる人材を育成している。

Q 生活工学共同専攻ではどんなことが学べますか？

身の回りには、当たり前のように「生活」があります。この中から課題や問題を抽出して解決することが当たり前の生活をより良い生活にすることにつながると思います。そのために、生活を実証検証可能なようにモデル化して、解析したり、生活を支える素材を物質材料と見て新たにものづくりをしたり、あるいは人間工学や建築史から検証して提言したりする方法を工学的な視点で行うこと。これが、生活を工学すること、つまり生活工学であると考えています。生活工学共同専攻では、このような多様な視点や、工学的な方法論を最先端の講義や研究活動を通じて学ぶことができます。そして、本専攻では、「生活者」の視点を通じて、人と暮らしを中心とした、ものづくりや、ことづくり、を実践していきます。これまでのように、科学技術に生活スタイルを合わせていくのではなく、生活スタイルに合わせた科学技術の創造がこれからの社会に求められていると考えています。そのため、本専攻では、安全安心で豊かな未来の社会生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を「生活者」の視点に立ち、工学的な考えに基づいて解決する方法を見出すことができて

る女性人材を育成・輩出することを目指しています。

Q 生活工学共同専攻の特色魅力は何ですか？

生活工学共同専攻の設立には、環境や社会生活の改善のためには理工系の女性人材の育成が行われなければならないという背景があります。理工系の女性人材の育成が行われなければならないのは理由があります。人が生きていく環境において理工系人材の力で解決しなければいけないという課題はたくさんあります。また、社会は進展します。それによって新たな課題がどんどん生まれます。そのため高度な知識と様々な視点を持った多様な理工系人材の育成が求められています。その使命を果たさなければいけないのが大学であり、大学院だと思っています。そのためには、今までは少数精鋭のみが活躍していた理工系女性人材の裾野をどんどん広げて、課題解決のために多くの優秀な女性理工系人材を輩出しなければなりません。現在、大学の理工系の男女比率には偏りがあります。特に、工学分野の偏りは大きいのです。この状況の改善が課題とされています。ですから、工学系の女性比率の改善が求められています。これを、女子大学の力を合わせて解決するために、お茶の水女子大学と協力して本専攻は作られました。理工系の中でも「生活者」の視点を持った高度研究者の育成活躍は今後の日本の産業界を支える活力となります。そこで、本専攻では、工学諸分野の基礎から応用まで幅広く理解したうえで、人間生活の諸課題を柔軟に捉えて研究す

る能力を有する女性研究者の育成を目的としていきます。

共同専攻である意義は、お茶の水女子大学の研究者を含め、多様な視点バックグラウンドを持つ教員の指導を受けることができることにあります。奈良女子大学の教員は、材料化学、機能分子デザイン学、人間情報学、建築環境学、お茶の水女子大学の教員は、人間工学、機能材料学、建築学、環境学の専門家です。両者が研究協力することで、両大学の教員から研究指導を受けることができます。具体的には、自身が所属する大学の指導教員に加え、他方の大学から副指導教員が付き、教員間で密接な連携を行いながら、大学院生の研究を幅広くサポートします。多様な視点を意識しながら充実した学びを得ることができる研究指導体制となっています。両大学は同じ方向性でありながら、各々の特色があります。本専攻の大学院生には、互いの生活工学の考え方も一緒に学ぶことで、より多様な視点を得ることを期待しています。

Q 先生の研究内容について教えてください。

材料には有機材料と無機材料があります。



研究しているゲル素材

私は有機材料を研究しています。その中でも特にゲル状態をとるような材料を研究しています。ゲルというのは、ミクロな網目構造の中に、水などの溶媒を含んで保っている状態のもので、ゼリーや寒天など食品でよく見られます。また、人間や生き物もゲル状態を保っています。典型的な例はクラゲです。水の塊ですが、生きています。誰もが知っている、身の回り、まさに生活の中にあるような素材の形態です。これを役に立つような材料にしたいと考えています。つまり、ゲル材料というような新しい材料を作っていくというところで研究を重ね続けています。ゲルというのは、微小な紐である高分子は、たまたま微粒子が連なってきた紐状のものが、構成要素になつてつながりあつて網目状になっているものなのです。ですから網目の中は入力力です。その中に、特別な機能を持った材料を混ぜ込むと、ゲルにその材料由来の機能を付与することができます。これは、例えば、プルプルと柔らかいゲルの良さと、混ぜ込んだ材料の良さを併せ持ったようなものができるのではないかと、いつかです。ですが、混ぜることでゲルでなくなってしまうかもしれないし、逆にまた新しい網目構造ができて面白いことがあるかもしれません。さらに、すでに機能を持っている素材をゲル状態にすることで、ゲル材料を作ることでも可能であると考えています。

現在取り組んでいるのは、塗り広げられるゲルです。例えば、化粧品のクリームのように塗り広げられるゲル状態でありながら、電気が流れるような材料、もしくは、電気が流れて色が変わるようなものができるかと考えて研究を進めています。さらに、繊維になるようにできたユニークな材料になると考えています。このように、ゲルでないといけない、しかし、

Q 大学院に進学し研究を続ける中で、やりがいと苦労を教えてください。

大学院に進学すると大学院生自身が研究を主体的に進めなければいけません。私の研究室の場合は、新しいゲル材料を作りますので、「これは必ずできる」というものでもありません。ですので、できるだけやり続けなければいけません。ですが、目標への筋道を決めて、適切に軌道修正していきながら粘り強くやり続けていけば、何かしらの努力の結果が思いがけず実をつけます。必ずあると信じてやり続けていけば、簡単に言いますと、「やった！」と嬉しさのあまり声を上げられるような瞬間が訪れるのです。もしかしたら小さな喜びかもしれませんが、運が良かったら大きな喜びかもしれませんが、必ずあるものです。これが、研究を続けていく上での苦労であり、やりがいであると思います。

Q 修了生の方の進路を教えてください。

本年度の修了予定生は、生活工学共同専攻で学んで研究した経験や培った工学の考え方を生かして繊維製造メーカーや、大手機械メーカー等に内定が決定しています。他の先生の研究室でも生活工学共同専攻で学んだことを活かすことができるような、様々な企業に就職して活躍しています。また、自身の学びや研究をより深めたい場合は、後期課程への進学を勧めています。

Q 生活工学共同専攻を目指す学生へのメッセージをお願いします。

生活工学というのは、皆さんの周りにいつでもある

学生記者の声



工学の知識を持つことで、誰もが当たり前の生活をより注意深く見ることができる「生活者」になれるという話が印象的でした。未来を豊かにする研究の芽は、身近な生活の中にあるのだと感じました。また、ご厚意で研究室や研究中のゲルを見せていただきました。小さなゲルに夢を託して日々努力する研究者は、とてもカッコイイと思いました。

高木 理華子(たかきりかこ)
文学部人間科学科3回生
出身校:愛知県立岡崎高等学校(愛知県)

▶ 施設・設備



工学部の設置にあたりリニューアルしたDMG MORI棟(工学系H棟)。今年1回生48名でのび全棟を使っています!



DMG MORI棟(工学系H棟)の中に入ると、目の前には「多目的工作室」が広がります。明るく開放的な空間で、壁際には積層3Dプリンタやミシン、卓上糸ノコ盤などの機材がズラリ。



玄関から左手に進むと「精密工作室」があります。「造形基礎演習I」で制作した椅子の部品は、この部屋にあるレーザーカッター(赤い機材)で板を切り出して作ったのだとか。

02 ランチの時間! 満足度全国1位の学生食堂へ!

食

決定! 人気メニューランキング!

奈良女生活の魅力の1つ、バラエティ豊かなランチメニュー! 今回は学生食堂・カフェそれぞれの人気メニューを調査しました。

学生食堂編

1位 とり天 毎週水曜の定番メニューです。カリッとした衣とジューシーな鶏肉が絶品!



- カリカリでおいしい!(文学部1回生)
- 衣がサクサクして美味しい! 毎週水曜日が楽しみです(文学部教職員)
- 揚げ物なのに重たくない。いつ食べても同じ美味しさ(文学部3回生)

2位 ささみチーズカツ ヘルシーなささみを使ったメニューです!

- ささみのにしっとりしていて、チーズと合っていて美味しい(文学部4回生)
- ポリュームあるのにヘルシーで美味しいから(生活環境学部2回生)

3位 えびとじ丼 3尾のえびがうれしい! ポリュームたっぷりのメニューです!

- 満足感が高すぎる! 肉やカレーが多いランチの中で貴重な魚介である上に海老! 大好きです!(生活環境学部2回生)

食堂の方に聞いてみた!

メニューを作る際のこだわりや決め方など、意外とみんなが知らない食堂のウラをお聞きしました!

▶ 季節感を大切に。

メニューを決めるのは一筋縄ではいかない。

メニューを決める上で大事にしていることは季節感を出すことです。例えば夏にはさらっとしたお茶漬けを出すなど工夫しています。季節感を出すために旬の野菜を使うのですが、それが安くご飯を提供できる秘訣なのです。まさに一石二鳥ですね。しかし、簡単にはいきません。実はkoto kotoランチ(和定食)とジョシカランチ(洋定食)でメニューが被らないように工夫しています。2つのランチで同時に揚げ物をメインで提供しないようにしたり、和と洋で分けていたり、肉の種類が好き嫌いも考慮して、同じ種類の肉を両方のランチで使わないようにしています。

カフェ編(SHI Café Dear deer!)

1位 オムライス 大人気・定番メニューです。選べるソースも魅力!

- ハーフにすることができ、卵がふわふわなのでペロッと食べられ、とても美味しいです(工学部1回生)
- 色々なソースが楽しめるから(理学部4回生)
- 定番! 定番だけが一番美味しいです(文学部2回生)



2位 プレートランチ 一度に複数のおかずが味わえる、ぜいたくなメニュー!

- 一度に色々なおかずが楽しめるからです!(生活環境学部2回生)
- 一度に色々な種類のおかずが食べられて嬉しい。ご飯も雑穀米で健康的で良い(文学部3回生)

3位 ピリヤニ風 普段は気軽に味わえない本格料理。奈良女ならお手軽に試せます!

- ピリヤニなどの本格的な料理は、なかなか自分でも作れない! 専門店に行っても量が多くて一人で食べきれないから(大学院人間科学専攻心理学コース)

▶ 1番のこだわりは見た目。とにかく喜んでほしい。

見た目のいろどりが良い方が、食欲がわきませんか? まずは、いろどりを重視することによって「おいしそう!」と思ってもらうことが大切です。そして、味にももちろんこだわっています。みんなで味見をして、味の確認を行っておいしさを追求しているのです。栄養バランスにもこだわっていますよ。女子大なので、お肉だけではなく野菜もたくさん取り入れています。とにかく奈良女の学生さんが喜んでくれるように見た目、味、栄養バランス、そのほか様々なことにこだわっています。

▶ 学生の声を聞かせて。素直な意見がほしい!

日々、学生さんが喜んでくれるようなメニューを作るために努力していますが、もっと学生さんの声が聞きたいです。濃い味が好みなのか、薄い味が好みなのか、どんなご飯が食べたいのか...叶えられる希望は叶えたいですね。

今年の奈良女は
昨年と
違うことが
沢山!

ならじょライフ~工学部の場合~

奈良女子大学に入学したら、どんな大学生活が待っているのでしょうか。本記事では「学・食・住」の三つの視点から、「ならじょライフ」の魅力に迫ります!



01 突撃! 工学部

令和4年(2022年)4月に開設されたばかりで、まだまだベールに包まれた工学部。今回はDMG MORI棟(工学系H棟)にお邪魔し、工学部生の生の声を伺いました。

学



河野 里咲(こうの りさ)さん
工学部1回生

志望理由:新設の学部で、手厚いサポートが受けられると思ったから
工学部の魅力:1回生でも何でもやらせてもらえるところ、少人数で学生同士仲が良いところ
将来の目標:興味のある医療分野で何かいいものを作れたらいいな、と思っています。



柴田 葉(しばた よう)さん
工学部1回生

志望理由:人間工学を勉強したかったから、入学時に学科を選択しないでいい点に惹かれたから
工学部の魅力:幅広い分野を学べるところ
将来の目標:世の中の役に立つものを作りたいです!

▶ 河野さんの時間割(前期)

	月	火	水	木	金
1限目 9:00~10:30	生体基礎	プラクティカル イングリッシュ	パサージュ	物理基礎	コンプリヘンシブ イングリッシュ
2限目 10:40~12:10	電子工学	健康運動実習I	批判的思考I	自己プロデュースI	
お昼休み					
3限目 13:00~14:30		プログラミング基礎	「奈良」女子大学入門		造形基礎演習I
4限目 14:40~16:10	中国語I	プログラミング基礎	情報処理入門	中国語I	価値創造体験演習
5限目 16:20~17:50		微分積分 確率・統計		キャリアデザイン・ ゼミナール	

▶ 授業 Pick up

月曜2限「電子工学」

柴田:最初は興味ないなあ...って思ってたんですけど、授業を受けてみたらめっちゃ面白くて。温度が一定以上になるとLEDが点灯する回路を組んだり、それを制御するプログラムを作ったり、というのを実際に自分で全部やってみるのが楽しかったですね。

火曜3・4限「プログラミング基礎」

柴田:この授業も面白くて。オセロゲームを作りました。
河野:パソコン上に自分が望んだ行動が表示されるようにプログラムを書いて、それを作動させると無事動いたー! ...みたいな、そういう授業です(笑)。

水曜2限「批判的思考I」

河野:生徒6人に他学部の先生が1人ついて、先生から出された課題に対して工学の視点から批判していく、という授業です。私は文学部の先生に教わったのですが、本とか文献の、いつもなら「ああそうなんだ~」で流す文章も深く読み解いたり、その上で「実際はどうか?」ということを教えてもらったり。新たな知見を得た授業でした。

柴田:私は心理学の先生と、奈良教育大学の哲学の先生から教わっていました。半期ずつ担当の先生が変わるんです。心理学の授業は『コンヴィヴィアル・テクノロジー』っていうテクノロジーの心理学の本を毎回授業までに読んで、

グループで話し合っ、それに先生が色々助言してくれて...って感じてました。

木曜2限「自己プロデュースI」

河野:外部から先生に来て頂いて、生き方を学んだり、夢を叶えるための方法論を実践したり、70年後の自分に手紙を書いたり...結構特殊な授業ですね。

金曜3限「造形基礎演習I」

柴田:平面デザインと、立体造形の2グループに分かれて学習しました。平面デザインの方は、フォントと配置を考えて自分の名前を書いたり、葉っぱをスケッチした後に、その抽象画を描いたり、写真や絵を使わずに、文字と幾何学模様だけでCDジャケットをデザインしたり、色々ですね。
立体造形では、椅子をデザインしました。Adobe Illustratorで部品を描いて、レーザーカッターで木材を切って、組み立てたんです。



Club/Circle # NWU



#英語が苦手でも大丈夫 #友達を作りたい!

♡お気に入り

ESS部 メンバー数:16人

活動内容:英語での演劇やスピーチ、ディベートなどを行なっています。練習を積んで大会や公演に出ることもできます!

◎入部のきっかけは? 新歓に行った時にとても雰囲気よかったこと!また大学からなにか新しいことを始めたいと思ったからです。授業など自分の予定に合わせて活動を調節できるのもいいところ!

◎ESS部に入って良かったことは? 大学に入ると英語を使う機会が一気に減ってしましますが、部活で楽しく英語に触れられることです。また奈良女だけでなく他大学の人と一緒に練習や公演をする機会もあり、友達の輪が広がりました!

◎英語が苦手でも大丈夫? 全然大丈夫です!現部員でも英語に苦手意識を持っていた人もいますが、練習するうちに自信がついてきます。また自分のペースに合わせて活動ができるので安心してください!



活動をもっと知りたい方はこちら!



#一人一人が成長 #全員バスケ

♡お気に入り

バスケットボール部 メンバー数:17人

活動内容:リーグ戦3部昇格を目指して、週3回の練習に励んでいます。経験者、初心者ともに切磋琢磨しています。

◎大変だったことは? 部員集めです。一時期3人だったのですが、SNSなどでアピールを続け、今年は14人も部員が増えました。

◎イベントは何がありますか? 新入部員歓迎会やバーベキュー、クリスマスパーティー、新年会、お茶大との交流など、一年を通してたくさんの行事があります。

◎奈良女バスケ部の魅力は? 学年の垣根を越えて仲がいいことです。でも練習中はとって真面目で、先輩後輩関係なくタメ出しもします。



入部希望の方はこちら!



#皆で紡ぐハーモニー #身ひとつでできる #他団と交流

♡お気に入り

音楽部 メンバー数:19人 第77回関西合唱コンクール 金賞

活動内容:合唱をしています♪学内での発表だけでなくコンクール等にも参加し、毎年12月には定期演奏会を開催します!

◎どんな雰囲気ですか? 初心者も経験者も両方いて、目標をもって一緒に頑張っています。みんな歌うのが好きです。落ち着いた人、元気な人、色々いて楽しい部活です。

◎合唱することの魅力は? 息を合わせて一人一人の声を重ね、ハーモニーを作ると、それがホールに響く感覚がとても良いんです。演奏後は達成感をすごく感じます。また、皆で歌うので怖くないというのも魅力です。

◎演奏を聴く機会はありますか? 12月4日にDMG MORIやまど郡山城ホールで定期演奏会を行います。ぜひお越しください。また、恋都祭(奈良女子大学学園祭)や新歓ステージでも歌います。来年には他団との合同コンサートも予定しています。



活動をもっと知りたい方はこちら!



#好きを語り合える #同志が見つかる

♡お気に入り

漫画研究会 メンバー数:約60人

活動内容:毎週火曜・金曜に学館2階「大和」で活動中。年4回部誌を発行。恋都祭でCOMIC★PARTYを主催。

◎どんな人たちが集まるサークルですか? 絵描き、文字書き、読み専など色々な人が所属しています。部員の好みのジャンルも様々ですので、個性豊かで賑やかなサークルとなっています。オタクを隠している方への配慮も抜かりありません。

◎普段の活動について教えてください! イラストを描いたり、ゲームをしたり、好きなものを布教したりしています。基本的に自由参加で、好きな時間に来て、好きなことをして、好きな時間に帰ることができます。

◎COMIC★PARTYって何ですか? 当サークルが主催する同人誌即売会です。準備も運営も全て部員だけで行うので、貴重でやりがいのある体験ができます。今年は3年ぶりの対面開催となりました!



入部希望の方はこちら!

03 帰宅! キャンパス目の前の学生寮 授業後はキャンパスのすぐ向かいに位置する学生寮へラクラク帰宅。住

ランチ、午後の授業が終わったらキャンパスのすぐ向かいにある寮の自室へ。

2022年4月に新しくできたS棟は、本学の教授と住環境学系の学部・大学院生がともに設計しました。

1ユニット3人のシェアタイプで、1階の共用キッチンでワイワイ過ごして、勉強するときは3人それぞれの2階の個室で集中しています!



月あたりの費用

寄宿料 4,700円

共益費等

約 10,000円※(一部、家具含む)

※年によって変動します

水道光熱水料

入居者で均等割



新寮生のキャンパスライフの様子はこちら▶



学生記者の声



小田 瑞貴(おた みずき)

文学部言語文化学科
日本アジア言語文化学コース3回生
出身校:高津高等学校(大阪府)

工学部関連記事を担当しました。入学して間もないにも関わらず、快く取材を引き受けてくださったお二人、素敵なお写真を撮影してくださった教務補佐員さん、関係者の皆様に心からの感謝を。ありがとうございました!



島末 結加(します えゆいか)

生活環境学部文化情報学科
生活文化学コース 1回生
出身校:大阪府立天王寺高等学校

食えることが毎日の楽しみなので、今回食堂の方に貴重なお話を聞いて嬉しかったです。メニューの決め方など気になっていたけど普段は聞けないことを聞くことができました。こんなにも学生のことを考えてくださることに改めて感謝の気持ちでいっぱい。学生の声をもっと聞きたいとおっしゃっていたので、皆さんも是非ひとことカードを書いてみてください。



永濱 萌衣(ながはま めい)

生活環境学部文化情報学科
生活文化学コース 1回生
出身校:雲雀丘学園(兵庫県)

取材という経験が初めてで、不安でしたが快く取材に応じてくださり、とてもいい経験になりました。食堂の方々に私たちの意見を伝えるために、みなさんぜひ遠慮なく食堂のひとことカードを書いてみてください。



佐久間 優里(さくま ゆうり)

文学部言語文化学科
日本アジア言語文化学コース3回生
出身校:新潟南高等学校

大学生生活のモチベーションの一つと言っても過言ではない学食についてこうして関わったこと、いい経験になったと思います。今回はアンケートという形でランキングを制作しましたが、たくさんの投票やコメントが寄せられ、奈良女の学食がいかに愛されているかが改めて感じられました。調査に関わってくださった皆様、ありがとうございました!



黒子 弘道副学長

附属学校・ハラスメント防止担当

ご自身の経歴や専門分野を教えてください

一東京工業大学高分子工学科を卒業し、1997年に奈良女子大学生活環境学部へ赴任しました。専門は高分子で、繊維の構造の研究をしています。高分子構造の基礎研究と共に、この知見を基にした応用研究を行っています。今年からは工学部の所属になりました。

副学長としてどのようなお仕事をされているのですか？

一附属学校部長、学生特別支援、ハラスメント防止対策委員会委員長としての仕事をしています。特にハラスメント対策は学生さんにとって大切な問題ですし、デリケートで気が張る仕事です。

工学部の先生とのことですが、奈良女に工学部ができたことについてどう感じましたか？

一博士課程で生活工学共同専攻ができたことから、学部にも工学系があればいいなと思っていました。やはり重要な学問分野なので学部として工学部ができたことはとても嬉しいですね。

これからの活動についての意気込み、奈良女生へのメッセージをお願いします。

一副学長としては、ハラスメントが起きない環境を作ることはもちろんですが、特にハラスメントが起きた時になるべく初期段階で被害を受けた人がその被害が少ない段階で回復できるような環境を作りたいです。また学生さんに対しては、先輩の築いてきた信頼のもとにある良い環境の大学なので、何事にも臆さずに頑張っていってほしいです。



榎本 剛副学長

総務・財務担当

事務部長

／奈良国立大学機構理事、事務局長

ご自身の経歴や専門分野を教えてください

一奈良女子大学には今年の4月に着任しました。それ以前は文部科学省で教育、国際交流、文化芸術に関わる仕事をしていました。特に、3月まで文部科学省の中の文化庁で勤務していて、奈良にはよく出張で来ていました。

どのようなお仕事をされているのですか？

一まず、大学の事務系の仕事を円滑に進めるため、事務局長の仕事があります。また今年から奈良教育大学との法人統合をきっかけに、奈良女だけではできなかったことができるような環境を整えています。学生の皆さんが奈良で学んだことが後々自分の財産になるようにしたいですね。

奈良女子大学はどのような印象がありましたか？

一いろいろなところで、奈良女を卒業した女性が活躍しています。また奈良は前職の関係で接点が多かったので、奈良で働く機会が得られてとても嬉しく思います。

これからの活動についての意気込み、奈良女生へのメッセージをお願いします。

一奈良女子大学の魅力を高めていく活動に当たります。また奈良女の学生の学ぶ環境をさらに良くしていくために、周囲の機関との連携をさらに深めたいですね。学生の皆さんには、大学卒業後のそれぞれのキャリア形成に向けていろいろな思いを馳せて頑張っていってほしいですね。



学生記者の声

学長や副学長の先生とはなかなかお話しする機会がないので、とても貴重な体験になりました。教授として接することはあっても、大学の運営を支えてくださっている学長・副学長としてのお仕事について知らないことがほとんどでした。どの先生方も奈良女や学生のことを大切に考えてくださっていることを、皆さんにもっと知っていただけたらと思います。

甘利 美宇(あまりみう) 文学部人文社会学科2回生 出身校:奈良県立奈良高等学校



西村 さとみ副学長

教養担当

奈良女子大学出身
(文学部 史学科から大学院博士課程まで)

ご自身の経歴や専門分野を教えてください

一学部から博士課程までずっと奈良女子大学に在学していました。専門分野は日本史で、特に国風文化の形成された平安時代を中心に古代から中世への文化史や思想史を研究しています。

副学長としてどのようなお仕事をされているのですか？

一まず入学試験に関わることで、そして入学後にみなさんが学ばれるカリキュラムの整備などの仕事をしています。今はコロナにより生活が大変だという学生の支援についても考えています。

奈良女生だったとのことですが、ご自身の学生時代についてお聞かせください！

一真面目に授業に参加するような普通の学生でしたが、本を読むことに夢中で授業を忘れていたなんてこともありました(笑)。日本の歴史文化を学んでいたのも、学校周辺の史跡や博物館によく行っていました。奈良でしかできないことをたくさんしていましたね。

奈良女生へのメッセージをお願いします。

一大学時代は自分のやりたいことを思う存分追求できる時間です。その中で自分にとって大事なことを探して追求するということをしてほしいです。また私自身もそれができるような環境を作っていきたいです。



遊佐 陽一副学長

情報担当

ご自身の経歴や専門分野を教えてください

一京都大学の大学院生時代には、和歌山県の白浜の臨海実験所で研究をしていました。その後農林水産省などを経て約20年前に奈良女子大学に came。生態学を中心に進化生物学や外来種の制御について研究を続けています。

副学長としてどのようなお仕事をされているのですか？

一情報担当で、4月にできた情報基盤センターのセンター長として皆さんが使っているネットワークやLMSの安定した運用についての仕事をしています。新しい仕組みが多いので安定して使ってもらえるようなシステムにしていかなければならないということで悩みも多いですね。また博士後期課程の学生さんを支えるためのプロジェクトも進めています。

これからの活動についての意気込み、奈良女生へのメッセージをお願いします。

一研究者としてはまだまだ解決すべき問題が色々あるのでそれについての研究を続けていきたいです。また副学長としては、皆さんが使ったよかったと思えるシステムを導入したいですね。学生の皆さんには、わかっていることはまだまだたくさんありますので、その研究をこれから担っていくために、普段から疑問をもって生活し、未知を既知にするという目標を頑張っていってほしいです。



今岡 春樹学長

学長

ご自身の経歴や専門分野を教えてください。
一30数年前に奈良女に着任しました。以前はコンピュータで服を作る情報系の分野で研究をしていました。奈良女に来た当初は家政学部(現在の生活環境学部)で被服系の分野

を教えていました。

学長としてどのようなお仕事をされているのですか？

一教育と研究がうまく回るように大学を運営し、お金や人事の面では理事長をサポートしています。国立大学としての使命を果たしつつ、どのような形で奈良女の良さを知ってもらおうか、どのように大学を運営していくかを常に考えています。意思決定やそれに伴う責任が大きいので、なかなか悩みの尽きない仕事ではあります。

奈良女生へのメッセージをお願いします。

一伝統のある奈良女は、社会を引っ張るような女性を古くから育成してきました。皆さんはリーダーになれる人材です。しかしリーダーになるというのはその責任が伴うもの、自信をもって判断できるような人になり、変化の多いこれからの時代で社会の役に立つ人になってほしいです。また、学生時代を、悩んだときに相談できるような生涯の友人を作る場にしてほしいです。自分にとって、大切な友人ができること、その友人にとって自分は何者か、を知る鏡となります。そうすると、自分が見る自分以外に、他人が見る(であろう)客観的に見たときの自分ができます。もっと広くすると、社会の中の自分を見つめることができます。そのことが「人は一人では生きられない」ということの実感となり、他人の気持ちを理解することにつながります。私は、そのことを理解し実践する人は、幸せを手に入れることができると考えます。皆さんにはぜひ、自分を客観的に見られるようになってほしいです。



久保 博子副学長

研究担当

奈良女子大学出身
(家政学部 住居学科から大学院修士課程まで)

ご自身の経歴や専門分野を教えてください

一奈良女の出身です。当時は家政学部住居学科という名称でしたが、そのまま大学院に進学し、奈良女に助手で採用して頂いてからずっと本学で仕事しています。研究は「暑さと住居」「健康と住生活」というテーマで行って来ました。生活環境学部心身健康学科で研究を続けてきましたが、今年から工学部の所属となりました。

副学長としてどのようなお仕事をされているのですか？

一研究担当として、研究協力課と一緒に先生方の研究環境を整えるお仕事をしています。また附属図書館(学術情報センター)長も兼ねているので、情報環境としての図書館をより良くするため図書館のスタッフの方と共に仕事をしています。

奈良女生だったとのことですが、ご自身の学生時代についてお聞かせください！

一徹夜で製図をしたり部活を頑張ったりと、勉学もプライベートも充実した大学生活を送っていました。女性がのびやかに過ごせる環境ができてとても良い環境だと思います。

これからの活動についての意気込み、奈良女生へのメッセージをお願いします。

一副学長としては、学生さんも含めて先生方の研究環境を整えるためにもっとできたらと思うことがあるので、できるだけのことを頑張りたいと思います。学生さんたちには、何でもできる今だからこそ興味を持ったことにどんどん挑戦して下さい。

INTERVIEW

ならじよ Today

学長・副学長 インタビュー

令和4年4月に設立した奈良国立大学機構 榎理事長のもと、奈良女子大学を運営する学長・副学長も新たに就任しました。大学運営を行っているのはどのような方々なのか。今回は奈良女子大学のリーダーズを身近に感じて頂けるよう、経歴や研究分野、仕事内容をご紹介します！



藤原 素子副学長

企画担当

奈良女子大学出身
(文学部 教育学科から大学院修士課程まで)

ご自身の経歴や専門分野を教えてください

一奈良女の文学部教育学科体育学専攻、大学院修士課程を卒業・修了後、大阪大学医学研究科博士課程に進学し、修了しました。巧みな運動の仕組みについて研究するスポーツバイオメカニクスが専門で、日々学生さんと一緒に研究をしています。

副学長としてどのようなお仕事をされているのですか？

一企画担当をしています。今年は奈良教育大学との法人統合や工学部の開設など、新たな取り組みがスタートしました。また評価と広報も担当しており、大学をうまくアピールするための仕事も行っていきます。

奈良女生だったとのことですが、ご自身の学生時代についてお聞かせください！

一体育の先生になりたかったのですが、実技以外に学問として体育が学べることに驚きました。おおがかりな実験を研究室の学生同士で結束力をもってやっていました。また勉強と同じくらいバスケットボールにも熱中していましたね。

これからの活動についての意気込み、奈良女生へのメッセージをお願いします。

一せっかく今年大きな改革があったので、奈良女にしかできない取り組みを立案していきたいです。学生さんには、長いようで短い大学生時代に自分のやりたいことを躊躇せず前向きに取り組んでほしいです。

佐保会 各支部リレー便り 全国47都道府県で活動



京都支部 異 純子

(1976年 理学部物理学卒業、1978年 理学研究科物理学専攻修了)

京都支部の現在の会員数は1,160名(2022年8月1日現在)です。本部発足の年(1914年)にはすでに京都では同窓生が集っていたとのこと。当初は教員の道を選ばれる卒業生が多く、女高師出身の大先輩に御世話になったと先輩方から聞きます。現在では、京都の大学院に進学した方やその後大学・民間企業で専門家として活躍されている方も多くおられます。2013-2020年まで京都大学の副学長や理事を務められた稲葉カヨ氏(昭和48年理学部生物学科卒)は、免疫系における樹状細胞の重要性を解明され、ロレアル・ユネスコ女性科学賞、武田医学賞を受賞、紫綬褒章を受章されています。姫岡とし子氏(昭和48年理学部化学科卒)は、大学で理系を学ばれたのですが、フランクフルト大学にて歴史を専攻された後、奈良女の人間文化研究科博士課程で博士号を取得され、2009年からは東京大学の西洋史学教授となりました。ユニークな活動家をされている馬庭京子氏(昭和34年文学部教育学科卒)は「誕生日ありがとう運動」や「命輝け第九コンサート」を主宰し障害児・者福祉の分野で長年活動をし、オムロン・ヒューマン大賞を受賞されています。

支部の規約には、活動の目的として社会に貢献することを掲げており、本部の姿勢ともつながっています。同窓会の組織としては特徴的な視座です。その目的のために、継続的に講演会や文化講座などの事業を展開しております。研修会を一般聴講可能とし、洛遊会というサークルでは、夏休みは親子企画があり会員ではない方にも楽しんでもらっています。また、同窓茶会や折り紙の会なども会員以外の参加者が多くあります。その他古典の会、歩こう会、互誼会には定期的に愛好者が集っております。大学女性協会京都支部と連携しており、佐保会員が精力的にその活動を支えています。また、毎年支部総会では長年会の活動を支えてこられた卒後55周年の方々に対して祝賀をさせて頂き、記念に京扇子を贈呈しています。そこで語って頂く各人のお話は、人生の指針や刺激に富み、後輩たちの心を鼓舞する力があり、無形のバトンをつないでゆく大切な取り組みとなっています。

なお、佐保会京都支部の活動は右記のQRコードからご覧下さい。



2022年6月支部総会時に行われた卒後55周年の方々への祝賀会での記念写真



同窓茶会を1~2年に1回開催して、懇親の機会を持っています(2018年4月の様子)

「なでしこ基金」へのご協力ありがとうございます

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、2022年4月1日から9月30日までの間に94,259,498円(古本(リサイクル)募金を含む)のご寄附を賜りました。心から、温かいご支援・ご協力に感謝申し上げます。「なでしこ基金」では、新たに「遺贈寄附」を実施し、3銀行(南都銀行、三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行)と協定を結んでいます。また今年度より、税額控除の対象となる新たな基金として、「奈良女子大学なでしこ基金研究等支援特定基金」を設立しました。「なでしこ基金」へのご寄附に際しましては、本学ホームページより、クレジットカード決済もご利用いただけます。また、皆様からご提供いただきました書籍・DVD等の買取金額を本学がご寄附として受領する仕組みである「古本(リサイクル)募金」も引き続き受け付けております。今後も、学生に質の高い修学研究環境を提供すべく努力してまいりますので、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

なでしこ基金HPはこちら▶



今回頂戴いたしましたご寄附のうち、90,000,000円は昭和59年理学部数学科卒業の故岡岡栄子様の生前のご意思を受け、ご遺族よりご寄附いただいたものです。ここに故人のご冥福をお祈りいたしますとともに、学生への有効な支援となるよう活用させて頂く所存です。改めて御礼申し上げます。



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 藤原素子、石井邦和、今野弘章、吉岡英生、吉田伸治、長谷圭城 編集責任者/室長 藤原素子
連絡先/奈良女子大学総務課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町 Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

「ならじよToday」へのご意見・ご感想を是非お聞かせ下さい。より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

・バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>